

① 自己紹介—松村和則(つくば市在住)

置賜自給圏推進機構会員・筑波大学名誉教授

有機農業運動の研究

- ・ 編著『有機農業運動の地域的展開』家の光協会 1991
- ・ 編著『食・農・からだの社会学』新曜社 2001

山村の「開発」に関する社会学的研究

- ・ 編著『山村の開発と環境保全』南窓社 1997
- ・ 編著『メガ・スポーツイベントの社会学—白いスタジアムのある風景』南窓社 2007
- ・ 編著『「開発とスポーツ」の社会学—「開発主義」を超えて』南窓社 2014
- ・ 共著『現代社会は「山」との関係を取り戻せるか』（【年報】村落社会研究 52）農文協 2015

② Gsef2016 に参加して

突然の指名で準備不足でしたが、大会の熱気に押されて渡部務さん（置賜自給圏）とともに発表ができてよかったと思います。しかし、大会が大きすぎて実質的なディスカッションができなかったことは残念でした。フランス語圏であったことも難しさを増したのかもしれませんが。仏語⇒英語の通訳もありましたが大変でした。

しかし、エクスカージョンで知り合った台湾の活動家/研究者と交流できたので、今後はアジアの人びとの活動を学んで相互に理解を深めたいと思いました。アジアの報告が少なかったので余計にそう思ったのかもしれませんが。ソウルの活動には敬服しています。”Status of Social Economy Develop in Seoul”というガイドブックまで出しておられることも素晴らしいと思いました。

③ 社会的連帯経済について

約 30 年前に K・ポランニーの著書を読みました。その記憶を辿りながら、商品化してはいけないもの—水・土・空気—を保全していく具体的「しかけ」をどう作り出していくかが緊急の課題であることを改めて思います。

自身の仕事に関連して言えば、山村の重要性(水源地、森林涵養など)を考えるならば、山村における「しごとづくり」を実現するための様々なレベルでの協働を急ぐ必要があると思います。

④ 討論

⑤ ビルバオ 2018 年に向けて